

美術という見世物 江戸から東京へ

開催日時..2019年9月28日 土 14時~17時
場所..法政大学市ヶ谷キャンパス 大内山校舎4階Y406教室

江戸の盛り場では見世物が、気楽な庶民娯楽として多くの人々を楽しませていました。明治以降、西洋から美術が輸入されると、伝統の見世物小屋で美術が展示されたとともに、美術館や美術学校が作られて新たに「美術の枠組」が形成されていきました。それは日本と西洋の文化をめぐる葛藤のプロセスでもありました。この研究会では、『江戸の見世物』の著者・川添裕氏と、『美術という見世物』の著者・木下直之氏をお招きし、見世物と美術の場としての江戸東京史を考えます。

●報告者

川添裕 (横浜国立大学教授／江戸東京研究センター客員研究員)

木下直之 (静岡県立美術館館長／東京大学名誉教授)

◎タイムテーブル

- 14時~ 川添裕 「見世物の名所 両国の変容」
- 15時~ 木下直之 「美術の名所 浅草から上野へ」
- 17時 デイスクッション

●司会

横山泰子 (法政大学教授／江戸東京研究センター長)

●コメント

山本真鳥 (法政大学教授／江戸東京研究センター研究プロジェクト・リーダー)



入場無料

参加申込:

PC/スマホ用アドレス <https://www.event-u.jp/fm/10942>

携帯(ガラケー)用アドレス <https://www.event-u.jp/fm/m10942>



PCスマホ用QR



携帯用QR



江戸東京研究センター
Hosei University Research Center for
Edo-Tokyo Studies

問い合わせ先

法政大学江戸東京研究センター 102-8160

E-mail: edotokyo-jimu@ml.hosei.ac.jp

東京都千代田区富士見2-17-1